精神薬理学概論 I

科目ナンバリング　NGN-201
選択　　2単位

椙田　麻菜美

1. 授業の概要（ねらい）

行動薬理学（精神薬理学）とは、実験心理学的な手法を用いて実験動物の行動に対する薬物の効果を調べる学問のことである。授業では、行動薬理学を中心に関連する神経科学的知見についても幅広く取り扱う。はじめに、行動薬理学の基礎的な知識について説明する。その後、様々な物質がストレスや睡眠などに与える影響について概説する。さらに後半には薬物依存のメカニズムや依存への陥りやすさなどについて取り上げる。適宜、最新の研究動向についても紹介する。

2. 授業の到達目標

様々な薬物（物質）が心や行動に与える影響について説明できる。

3. 成績評価の方法および基準

授業への参加度(10%)、中間試験（30%）、期末試験（60%）

4. 教科書・参考文献

教科書
教科書は使用しない。毎回資料を配布する予定である。
参考文献
J.Pinel　ピネル　バイオサイコロジー　脳–心と行動の神経科学　西村書店
日本薬理学会　実践行動薬理学　金芳堂

5. 準備学修の内容

身の回りにある様々な物質が心や行動にどのような影響を与えるのか考える。
授業後は、配布資料を見直す。

6. その他履修上の注意事項

授業の進み具合に応じて内容を変更することがある。

7. 授業内容

【第1回】　ガイダンス・行動薬理学（精神薬理学）とは
【第2回】　行動薬理学の歴史・薬物動態
【第3回】　行動薬理学の基礎知識(1)
【第4回】　行動薬理学の基礎知識(2)
【第5回】　動物の行動測定(1)
【第6回】　動物の行動測定(2)
【第7回】　ストレス
【第8回】　中間試験
【第9回】　睡眠
【第10回】　生体リズム
【第11回】　薬物依存(1)
【第12回】　薬物依存(2)
【第13回】　薬物依存(3)
【第14回】　依存への陥りやすさ
【第15回】　期末テスト